

日立太陽光発電システム

# 工事説明書

品名 表示ユニット  
型式 HSS-D50A

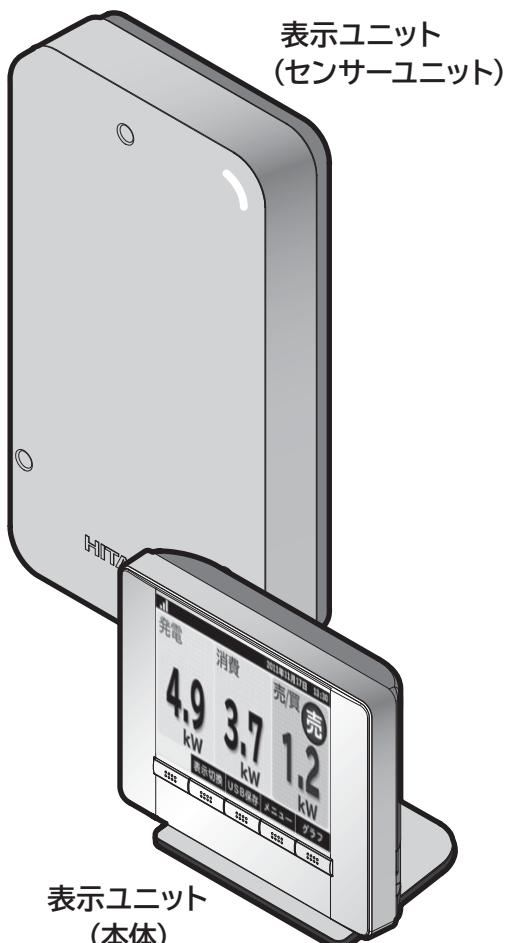
HITACHI  
Inspire the Next

販売店・工事店様用

## お願ひ

- この工事説明書は、取扱説明書とともに必ずお客様にお渡しください。
- 試運転を必ず行い、お客様へ正しい使いかたをご説明ください。

- 施工を始める前に、「安全のため必ずお守りください」をよくお読みのうえ、正しく安全に施工してください。
- 製品の機能が十分発揮されるように、この工事説明書の内容に従って、正しく安全に施工してください。
- 施工は販売店・工事店様が実施してください。(第2種電気工事士の資格必要)
- 施工終了後は、施工後の点検に従って確認を行ってください。
- 転居の際に、取り外し、取り付けする必要がありますので、この「工事説明書」は、「取扱説明書」とともにお客様に大切に保管いただくようにしてください。



## もくじ

安全のため必ずお守りください .....	2
施工をされる方へのお願ひ .....	2
施工手順 .....	3
取付寸法図と外形寸法図 .....	4
付属品の確認 .....	5
取付場所の選定 .....	5
表示ユニット(センサユニット)の施工 .....	6
表示ユニット(センサユニット)の配線方法 .....	7
電気工事	
パワーコンディショナの出力ケーブルを主幹 .....	8
漏電ブレーカの1次側に接続する場合 .....	8
パワーコンディショナの出力ケーブルを主幹 .....	9
漏電ブレーカの2次側に接続する場合 .....	9
パワーコンディショナを2台設置する場合 .....	10
パワーコンディショナを2台設置し、 全量配線(売電専用)する場合 .....	12
パワーコンディショナを3台設置し、 全量配線(売電専用)する場合 .....	14
パワーコンディショナを4台設置し、 全量配線(売電専用)する場合 .....	16
全量配線(売電専用)の設定のしかた .....	17
施工後の点検 .....	18
表示ユニット(本体)の表示確認 .....	19
表示ユニット(本体)側の配線 .....	21
売電価格の初期値設定方法 .....	22
通信方式設定変更「有線⇒無線」方法 .....	23
CO <sub>2</sub> 換算係数の設定方法 .....	24

# 安全のため必ずお守りください

●施工を始める前に、「安全のため必ずお守りください」をよくお読みのうえ、正しく安全に施工してください。

ここに示した注意事項は、

表示内容を無視して誤った使いかたや設置や工事をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



## 警告

この表示の欄は、「死亡または重傷を負うことが想定される」内容です。



## 注意

この表示の欄は、「傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される」内容です。

絵表示の例



「警告や注意を促す」  
内容のものです。



してはいけない  
「禁止」の内容です。



実行しなければならない  
「指示」内容のものです。



## 警告



- 取付・配線には、必ず同梱部品および指定部材を使用する  
落下・感電・火災の原因になります。

- 配線工事中および運転開始までは、分電盤の太陽光発電用ブレーカと接続箱の全ての太陽電池開閉器を「OFF」の状態にして行う  
高電圧の発生により感電のおそれがあります。



- 工事説明書に記載されていない設置や分解・改造は絶対に行わない  
落下・感電・火災のおそれがあります。

分解禁止



## 注意



- 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所へ設置しないでください。  
ガスが漏れて表示ユニット（センサーユニット）の周囲にたまると、発火の原因となることがあります。
- 電流センサー用ケーブルおよび電圧検知ケーブルは、誤動作防止のため、電力線と併走しないでください。

## 施工をされる方へのお願い

●建物の構造(RC、鉄骨、断熱材のアルミシートなど)等の影響で表示ユニット(センサーユニット)と表示ユニット(本体)の電波状況が悪くなる場合があるため、屋根裏等の密閉された空間に表示ユニット(センサーユニット)を設置しないでください。

●電流センサーの端子接続が完了しない状態で電力系統側ブレーカをONすると、電流センサー故障の原因となります。

●電流センサーは精密部品であるため落としたり衝撃を与えると、正しい計測ができなくなります。

●出力の小さい信号線(電力センサー用ケーブルA・B、モジュラーケーブル)と出力の大きい信号線(電圧検知用ケーブル)は一緒に束ねないで必ず分離して配線してください。  
ノイズの影響で正常に動作できなくなる場合があります。

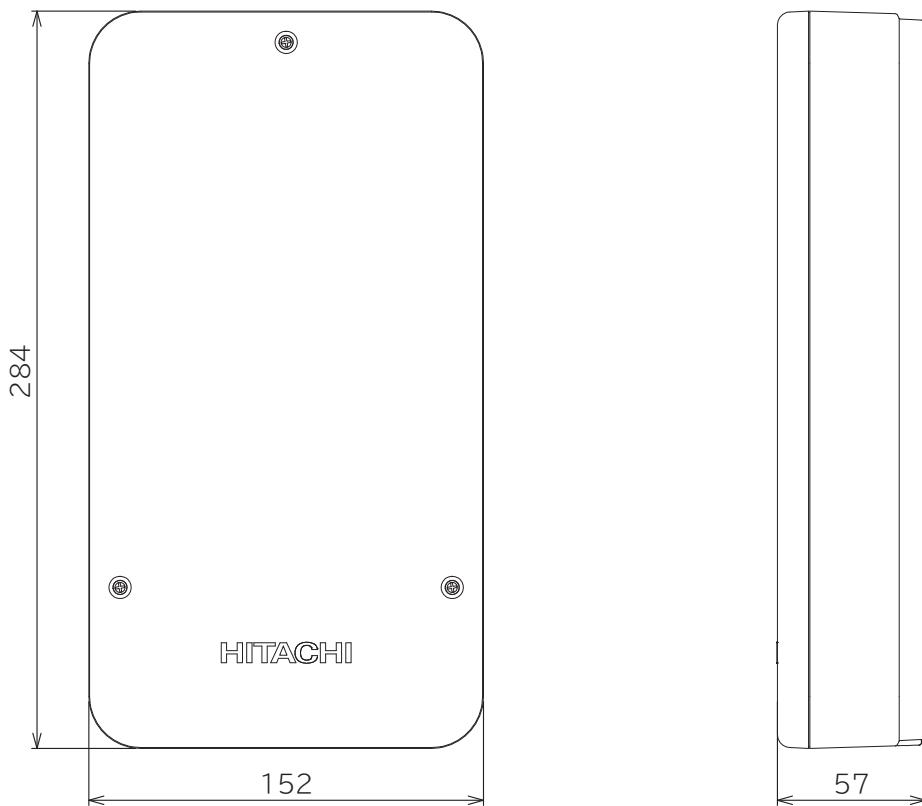
# 施工手順

- 1 表示ユニット（センサーユニット）の取付場所の選定 → P.5
- 2 表示ユニット（センサーユニット）の施工 → P.6
- 3 表示ユニット（センサーユニット）の配線方法 → P.7
- 4 電気工事
  - パワーコンディショナの出力ケーブルを主幹漏電ブレーカの1次側に接続する場合 → P.8
  - パワーコンディショナの出力ケーブルを主幹漏電ブレーカの2次側に接続する場合 → P.9
  - パワーコンディショナを2台設置する場合 → P.10
  - パワーコンディショナを2台設置し、全量配線（売電専用）する場合 → P.12
  - パワーコンディショナを3台設置し、全量配線（売電専用）する場合 → P.14
  - パワーコンディショナを4台設置し、全量配線（売電専用）する場合 → P.16
- 5 全量配線（売電専用）の設定のしかた → P.17
- 6 施工後の点検 → P.18
- 7 表示ユニット（本体）の表示確認 → P.19
- 8 表示ユニット（本体）側の配線（有線接続の場合） → P.21
- 9 売電価格の初期値設定方法 → P.22
- 10 通信方式設定変更「有線⇒無線」方法 → P.23
- 11 CO<sub>2</sub>換算係数の設定方法 → P.24

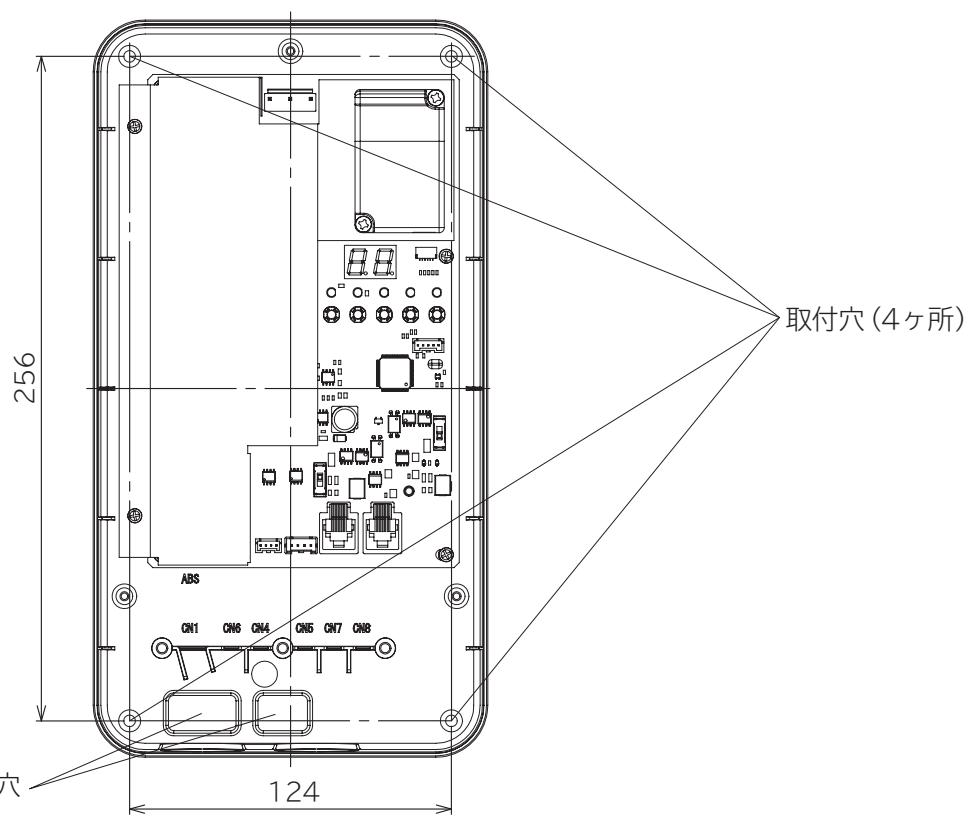
# 取付寸法図と外形寸法図

表示ユニット(センサユニット)外形寸法図

(単位mm)



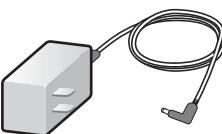
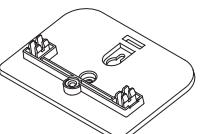
取付穴位置



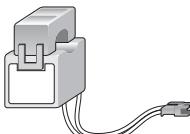
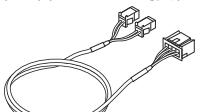
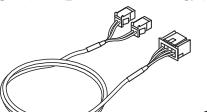
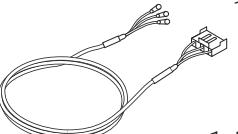
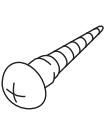
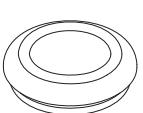
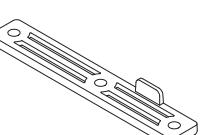
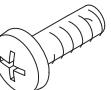
# 付属品の確認

## ■付属部品（同梱されているかご確認ください）

### 表示ユニット（本体）

ACアダプタ 	木ネジ（4×25） 	固定台 
1個	2個	1個

### 表示ユニット（センサーユニット）

電流センサー 	電流センサー用ケーブルA (主幹ブレーカ接続用)  3m	電流センサー用ケーブルB (太陽光発電用ブレーカ接続用)  1.5m	電圧検知用ケーブル  1.5m
木ネジ（4×25） 	ブッキング 	ケーブルホルダ 	プラスチック用ネジ  3個

付属の電流センサー用ケーブルA・B、及び電圧検知用ケーブルのケーブル長が足りない場合は、別売のケーブルを使用してください。付属のケーブルを加工して延長して使用すると接続不良が発生し、正常に電流、電圧が検知できなくなる場合があります。

## ■別売部品

ケーブル種類	型式	長さ
電流センサー用ケーブル (太陽光発電用ブレーカ接続用)	HSS-C14AA	10m
	HSS-C15AA	20m
	HSS-C16AA	30m
	HSS-C17AA	10m
	HSS-C18AA	20m
	HSS-C19AA	30m
電圧検知用ケーブル	HSS-C110AA	10m
	HSS-C111AA	20m
	HSS-C112AA	30m

## ■現地調達部材

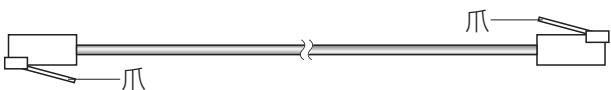
### ●隠蔽配線の時

- ・隠蔽配線用の穴をふさぐパテ等

### ●パワーコンディショナを2台設置する場合

- ・モジュラーケーブル（6極4芯）

市販のモジュラーケーブル（6極4芯）外観図



# 取付場所の選定

表示ユニット（本体）の使用場所を想定して、表示ユニット（センサーユニット）の施工場所を選定してください。表示ユニット（センサーユニット）と表示ユニット（本体）間の無線通信は「特定小電力無線局の無線設備」の技術基準に適合しています。通信できる距離は見通し50m程度が目安です。無線通信が正常に行われない場合は、市販のモジュラーケーブルを使用して有線接続をしてください。

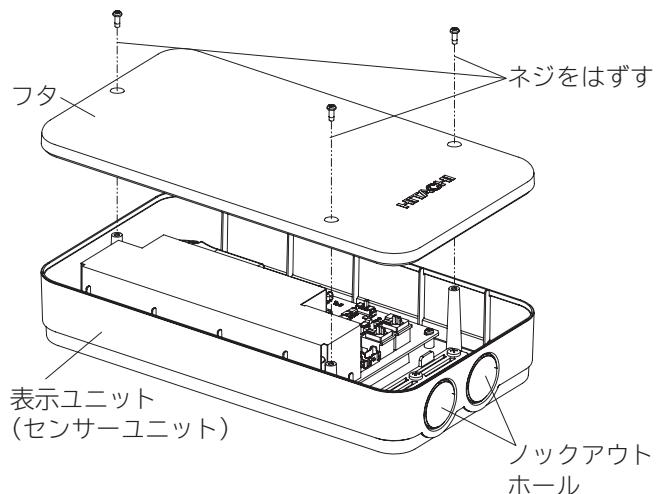
## ■取付場所について下記の条件を守ってください

- ・直射日光の当たらない場所
- ・製品重量（約1kg）に十分耐える場所
- ・テレビ、ラジオ、パソコン、無線機等のアンテナ、アンテナ線より、3m以上間隔がとれる場所
- ・周囲温度が5°C以上35°C以下の場所
- ・屋内の湿度が90%以下で結露のない場所
- ・周囲に電波を遮蔽するものがいる場所
- ・電子レンジ、無線機器（パソコンの無線LAN等）の影響がない場所
- ・直接風雨が当たらない場所

# 表示ユニット（センサユニット）の施工

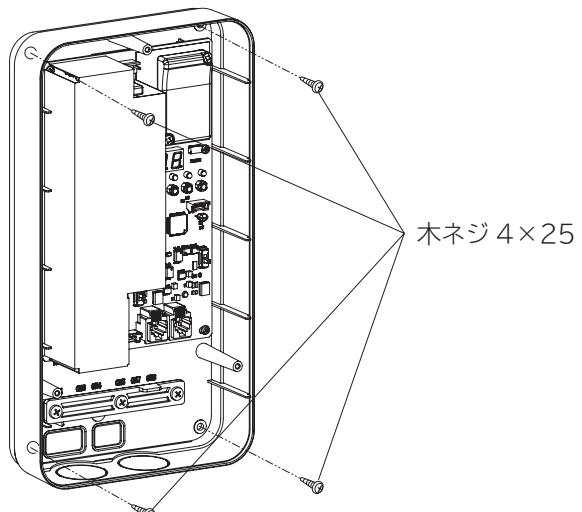
## 1 フタを外す

表示ユニット（センサユニット）のネジ3本を外し、フタを外してください。



## 2 壁に固定する

付属の木ネジ（4×25）4本で表示ユニット（センサユニット）を固定してください。



### お願い

・壁が中空壁（石膏ボード等）の場合は市販のプラスチックアンカー等を使用してください。

## ⚠ 注意



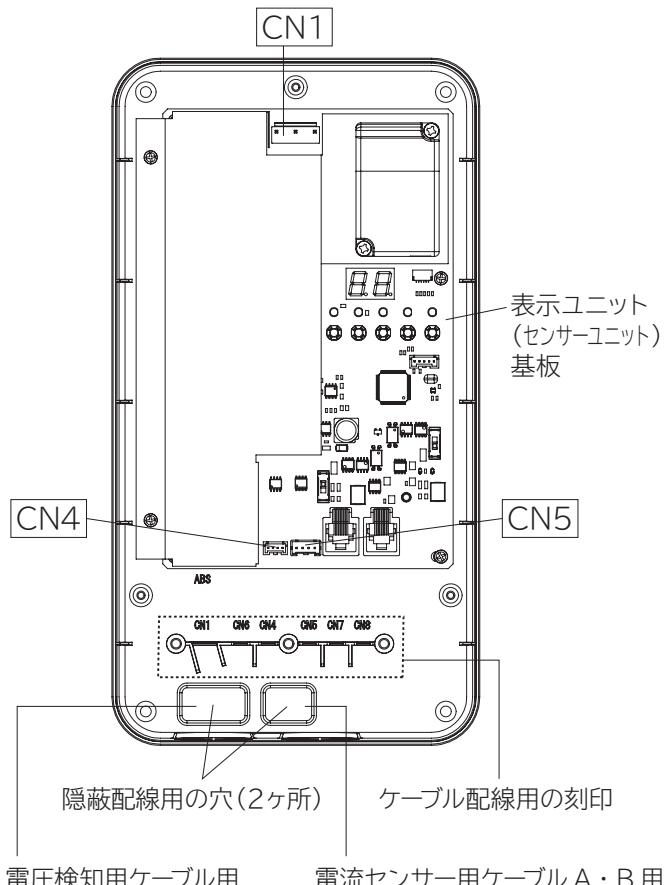
●表示ユニット（センサユニット）のノックアウトホール位置が上向きとなる方向では取り付けない。  
ほこり等が侵入し故障の原因になります。

ノックアウトホール位置 左	ノックアウトホール位置 下	ノックアウトホール位置 右	ノックアウトホール位置 上
○	○	○	×

# 表示ユニット（センサユニット）の配線方法

## 1 ケーブルを基板のコネクタに差し込む

- ①電流センサー用ケーブルA、Bを表示ユニット（センサユニット）基板のコネクタCN4、コネクタCN5にそれぞれ差し込んでください。
- ②電圧検知用ケーブルを表示ユニット（センサユニット）基板のコネクタCN1に差し込み、ケース左側のすきまに配線してください。



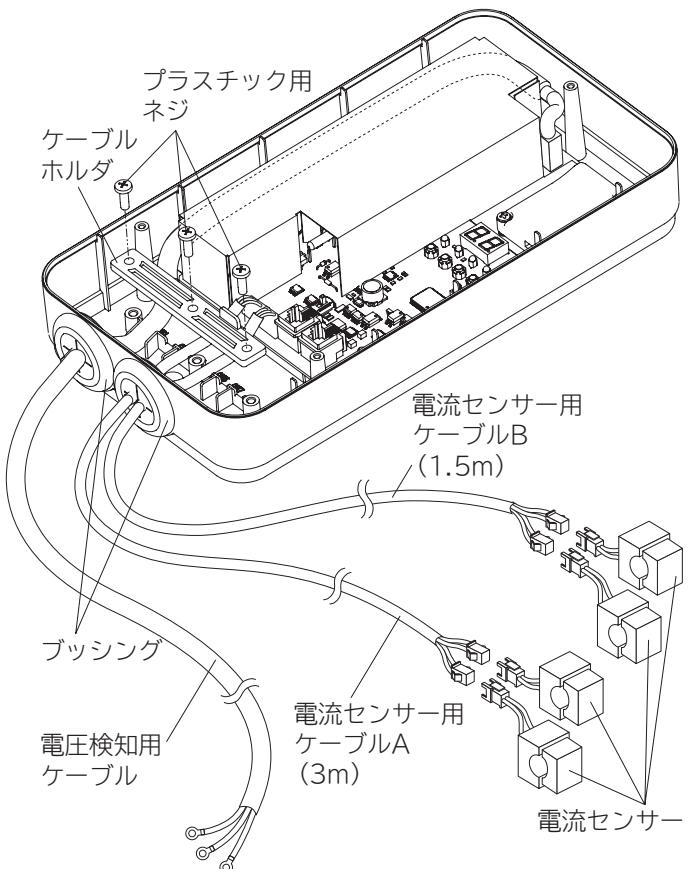
## 2 ケーブルを配線する

### (露出配線の場合)

- ①表示ユニット（センサユニット）のノックアウトホールをニッパーやカッターで切り欠いてください。
- ②付属のブッシングをはめ込み、カッター等で切り込みを入れ、配線を通してください。
- ③表示ユニット（センサユニット）の基板のコネクタ番号とケーブル配線用の刻印のコネクタ番号が合うようにケーブルを配線してください。
- ④付属のプラスチック用ネジ3本を用いてケーブルホルダで配線を固定してください。
- ⑤付属の電流センサー4個を電流センサー用ケーブルA、Bのコネクタに差し込んでください。（電流センサーの端子接続が完了しない状態で電力系統側ブレーカをONにすると、電流センサーの故障の原因になります）
- ⑥すべての工事終了後、ノックアウトホールのブッシングのすきま等をパテなどでふさいでください。

### (隠蔽配線の場合)

- ①ケーブルを表示ユニット（センサユニット）の隠蔽配線用の穴に通してください。
- ②表示ユニット（センサユニット）の基板のコネクタ番号とケーブル配線用の刻印のコネクタ番号が合うようにケーブルを配線してください。
- ③付属のプラスチック用ネジ3本を用いてケーブルホルダで配線を固定してください。
- ④付属の電流センサー4個を電流センサー用ケーブルA、Bのコネクタに差し込んでください。（電流センサーの端子接続が完了しない状態で電力系統側ブレーカをONにすると、電流センサーの故障の原因になります）
- ⑤すべての工事終了後、表示ユニット（センサユニット）の隠蔽配線用の穴をパテなどでふさいでください。



# 電気工事

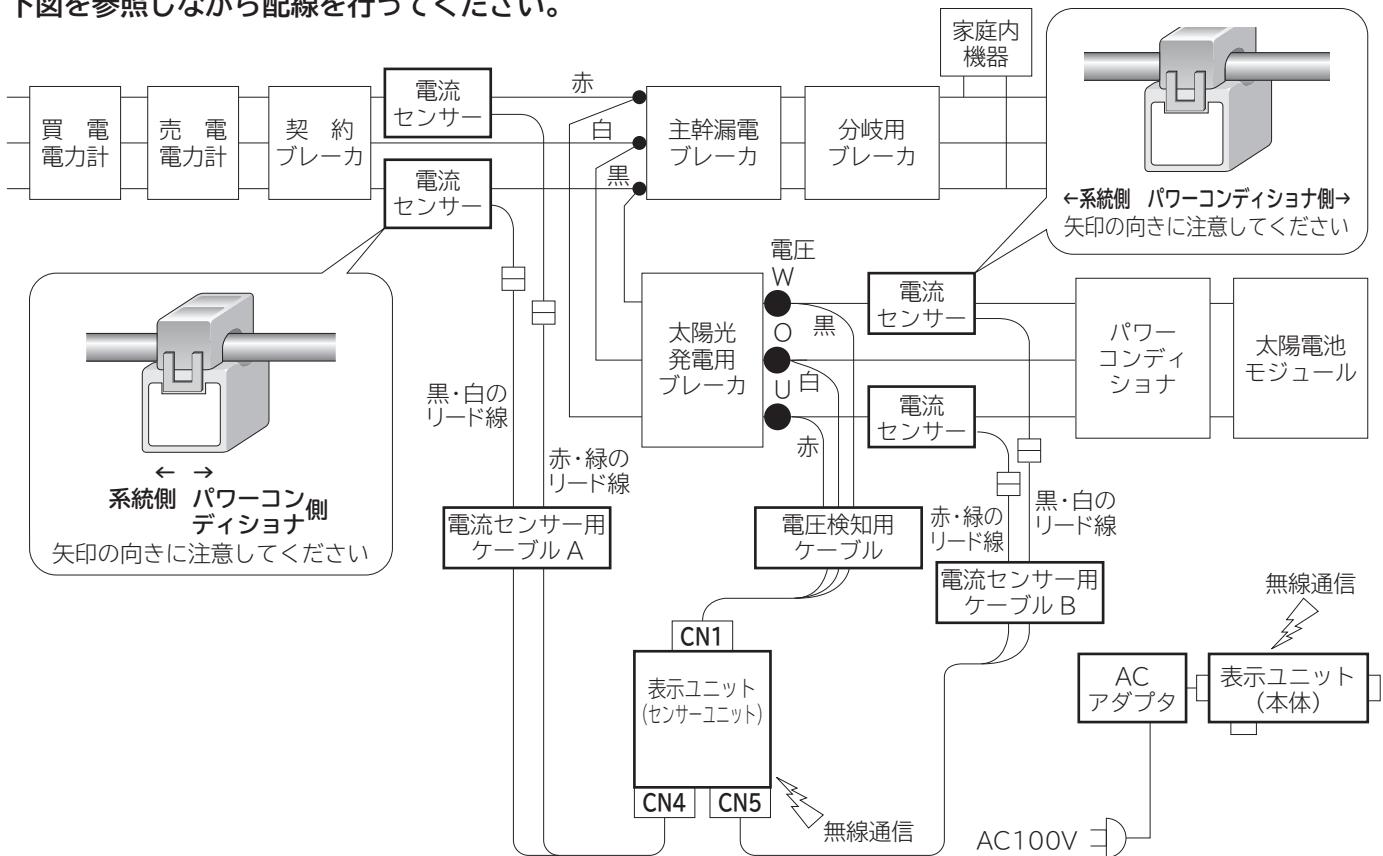
## ⚠ 警告

- 配線工事中および運転開始までは、分電盤の太陽光発電用ブレーカと接続箱の全ての太陽電池開閉器を「OFF」の状態にして行う  
高電圧の発生により感電のおそれがあります。

- 表示ユニット(センサユニット)・別売のセンサユニットの配線は、必ず電力会社の指示に従ってください。

### パワーコンディショナの出力ケーブルを主幹漏電ブレーカの1次側(系統側)に接続する場合

下図を参照しながら配線を行ってください。



#### 1 電流センサーを主幹漏電ブレーカの1次側に設置する

電流センサー用ケーブルAに接続されている電流センサーを主幹漏電ブレーカの1次側(U相、W相)へ設置してください。

#### 2 電流センサーを太陽光発電用ブレーカの2次側に設置する

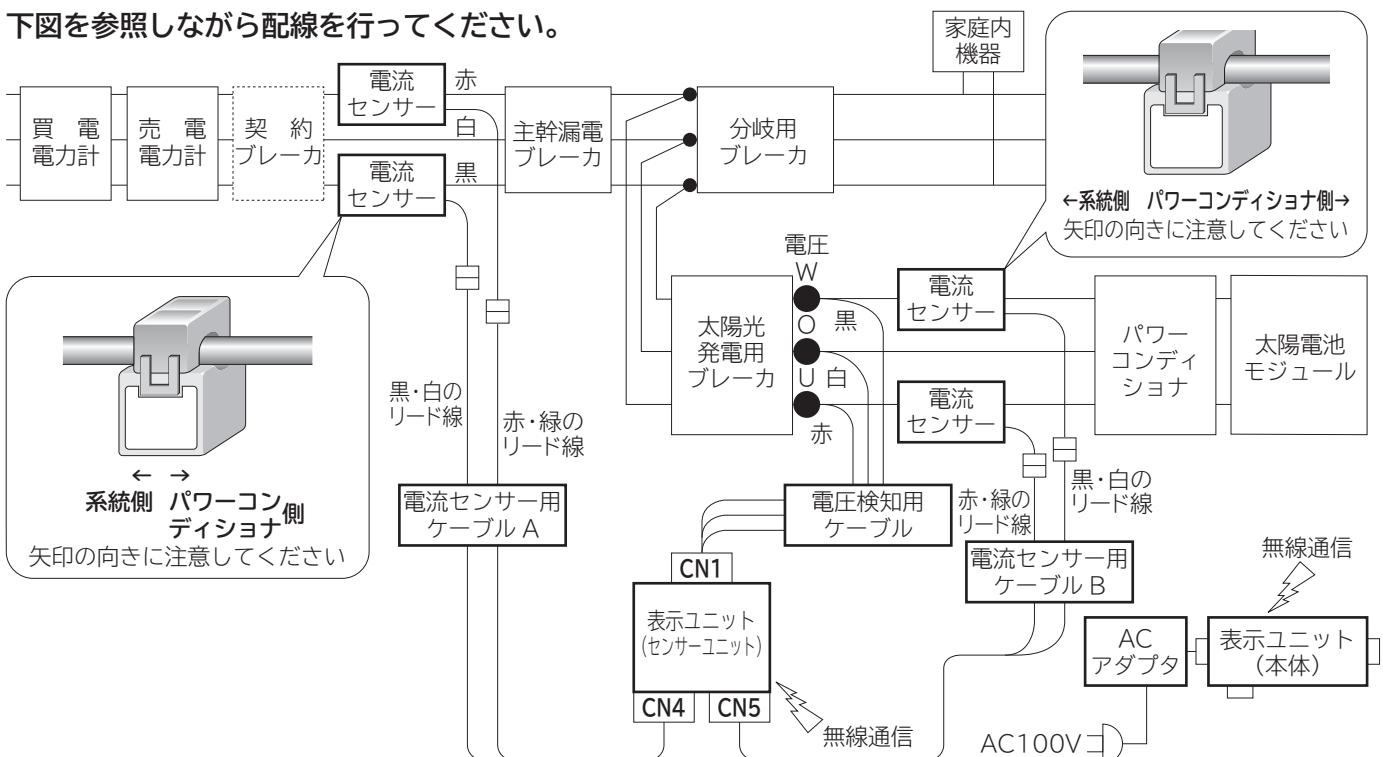
電流センサー用ケーブルBに接続されている電流センサーを太陽光発電用ブレーカの2次側(U相、O相、W相)へ設置してください。

#### 3 電圧検知用ケーブルを太陽光発電用ブレーカの2次側に設置する

電圧検知用ケーブルの丸端子を太陽光発電用ブレーカの2次側(U相、O相、W相)へ接続してください。

## パワーコンディショナの出力ケーブルを主幹漏電ブレーカの2次側(分岐ブレーカ側)に接続する場合

下図を参照しながら配線を行ってください。



### 1 電流センサーを主幹漏電ブレーカの1次側に設置する

電流センサー用ケーブルAに接続されている電流センサーを主幹漏電ブレーカの1次側(U相、W相)へ設置してください。

### 2 電流センサーを太陽光発電用ブレーカの2次側に設置する

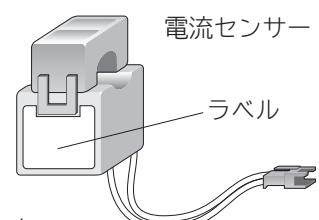
電流センサー用ケーブルBに接続されている電流センサーを太陽光発電用ブレーカの2次側(U相、W相)へ設置してください。

### 3 電圧検知用ケーブルを太陽光発電用ブレーカの2次側に設置する

電圧検知用ケーブルの丸端子を太陽光発電用ブレーカの2次側(U相、O相、W相)へ接続してください。

## 電流センサー等の施工時の注意点

- 電流センサーの端子接続が完了しない状態で電力側ブレーカをONにすると、電流センサー故障の原因となります。
- 電圧検知用ケーブルは誤配線すると機器故障の原因となります。
- 電流センサー用ケーブルは誤接続すると正しく計測できません。
- 電流センサーを取り付ける相(U相、W相)、およびセンサーの方向を間違えると正しい電力量が計測できません。ラベルに記載されている矢印の向きに注意してください。
- 電流センサーの内径は16mmです。CVケーブルの場合およそ38mm<sup>2</sup>–1C以下が目安です。
- 電流センサーおよび電流センサー接続用コネクタは水ぬれや結露しない場所に設置してください。
- 電流センサー用ケーブルA・Bと電圧検知用ケーブルは一緒に束ねないで必ず分離して配線してください。誘導ノイズの影響で正しく計測できない場合があります。
- 電力計または契約ブレーカーと主幹漏電ブレーカとの間に屋内配線とは別にエコキュート等の他の機器が接続されている場合は、電流センサー用ケーブルAの電流センサーをエコキュート等の他の機器を接続する位置より前に設置してください。エコキュート等の他の機器を接続する位置より後ろに設置すると売買電力量が正常に計測できません。



## ⚠ 注意

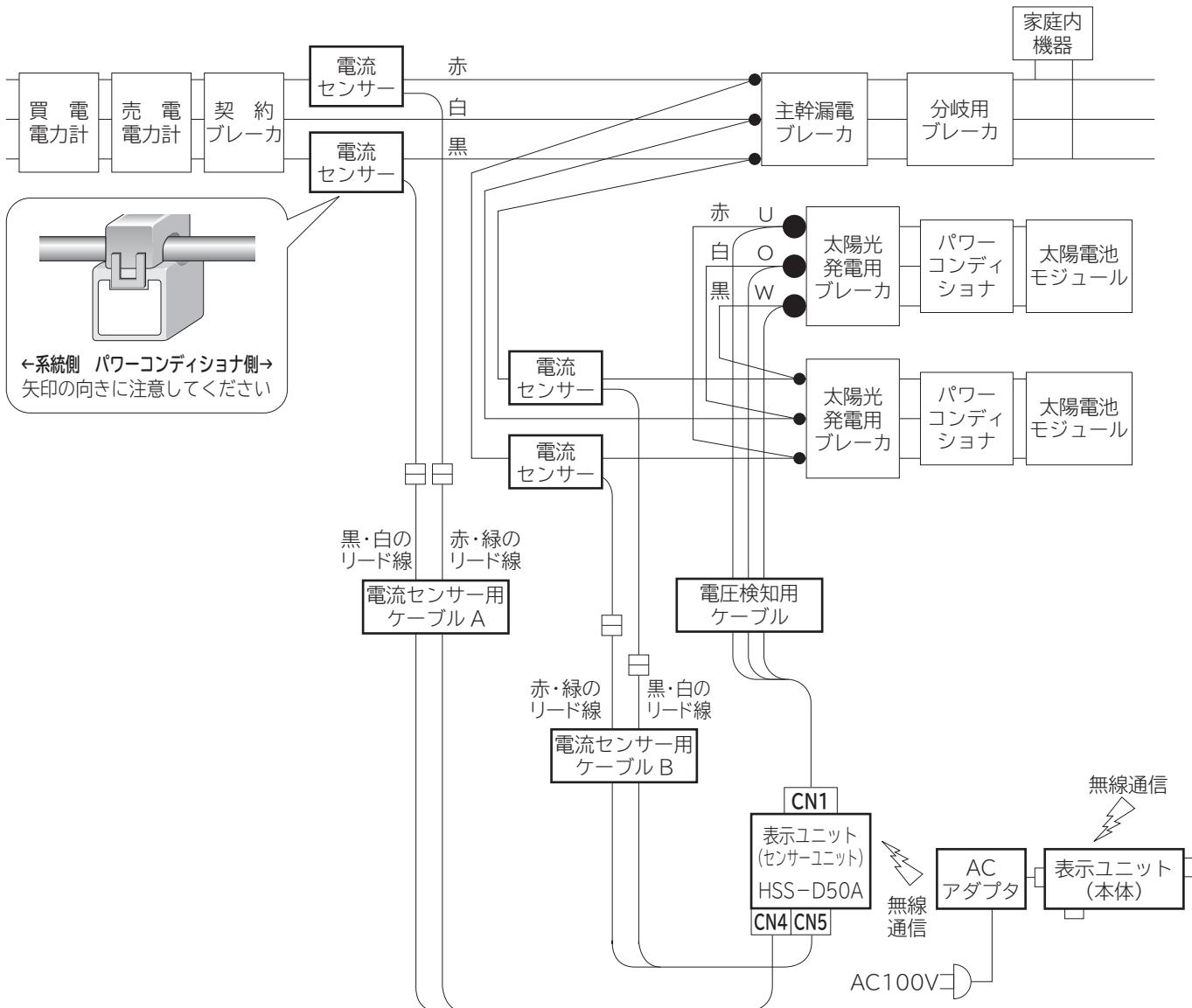
- 電流センサーの許容最大貫通電流は60Aのため、1台の表示ユニット（センサユニット）に2台以上のパワーコンディショナを接続する場合は出力電流の合計値が60Aを超えないようパワーコンディショナを選定してください。

### パワーコンディショナ2台を設置する場合

主幹漏電ブレーカと太陽光発電用ブレーカを接続するケーブルの1線(1C)当たりの外形が $\phi$ 14mm以下の場合は、1台の表示ユニット（センサユニット）に2~3台のパワーコンディショナを接続することができます。（定格出力が5.5kWのパワーコンディショナは2台までしか接続できません。）

下図を参照しながら配線を行ってください。

1箇所の端子に3本以上の電線を接続しないでください。



## パワーコンディショナ2台を設置する場合

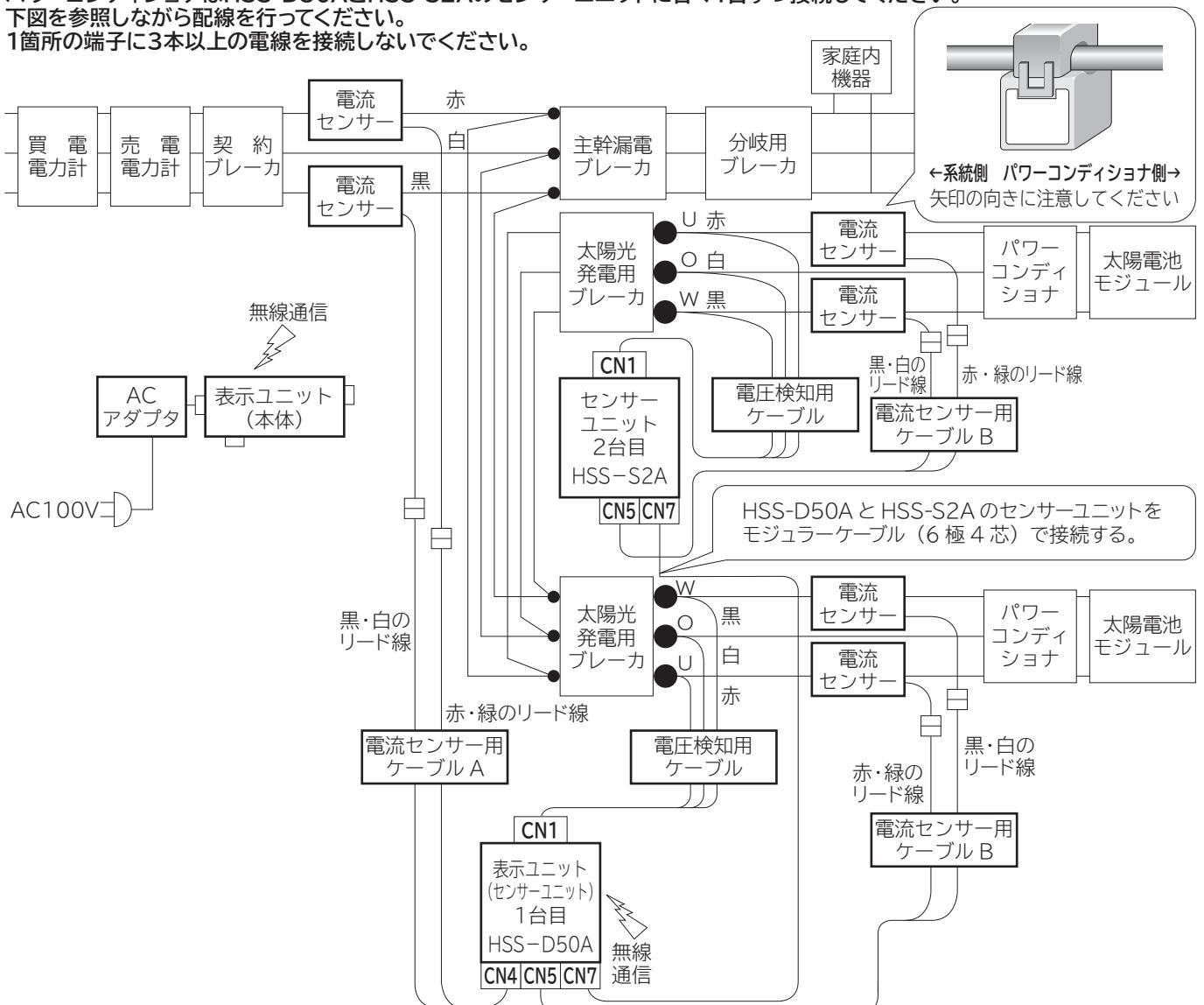
主幹漏電ブレーカと太陽光発電用ブレーカを接続するケーブルの1線(1C)当たりの外形が $\phi 14\text{mm}$ を超える場合は電流センサーを正しく取付けることができないため、1台の表示ユニット(センサーユニット)にパワーコンディショナを2台以上接続することはできません。

センサーユニットの2台目は、別売のセンサーユニット(HSS-S2A)をご用意してください。

パワーコンディショナはHSS-D50AとHSS-S2Aのセンサーユニットに各々1台ずつ接続してください。

下図を参照しながら配線を行ってください。

1箇所の端子に3本以上の電線を接続しないでください。



### 1

### 主幹漏電ブレーカの1次側に設置する

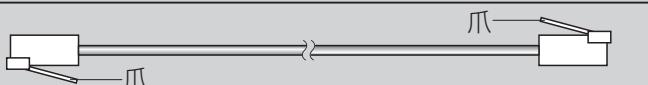
①パワーコンディショナの出力ケーブルを主幹漏電ブレーカの1次側(系統側)に接続する場合を示していますが、センサーユニット(2台目)の配線方法の違いだけで2次側に接続する場合も同じ様に作業してください。

②上図を参照しながら表示ユニット(センサーユニット)(1台目)、センサーユニット(2台目)の配線を行ってください。

※表示ユニット(センサーユニット)(1台目)は → P.8 → P.9 を参照してください。

センサーユニット(2台目)は市販のモジュラーケーブル(6極4芯)が必要です。

市販のモジュラーケーブル(6極4芯)外観図



③モジュラーケーブル(6極4芯)を配線後、1台目の表示ユニット(センサーユニット)のスライドスイッチSW7をOFFにし、2台目のセンサーユニットのスライドスイッチSW7をONにしてください。

※詳しくは、別売のセンサーユニットに同梱されている工事説明書にしたがって設定してください。

### ⚠ 注意



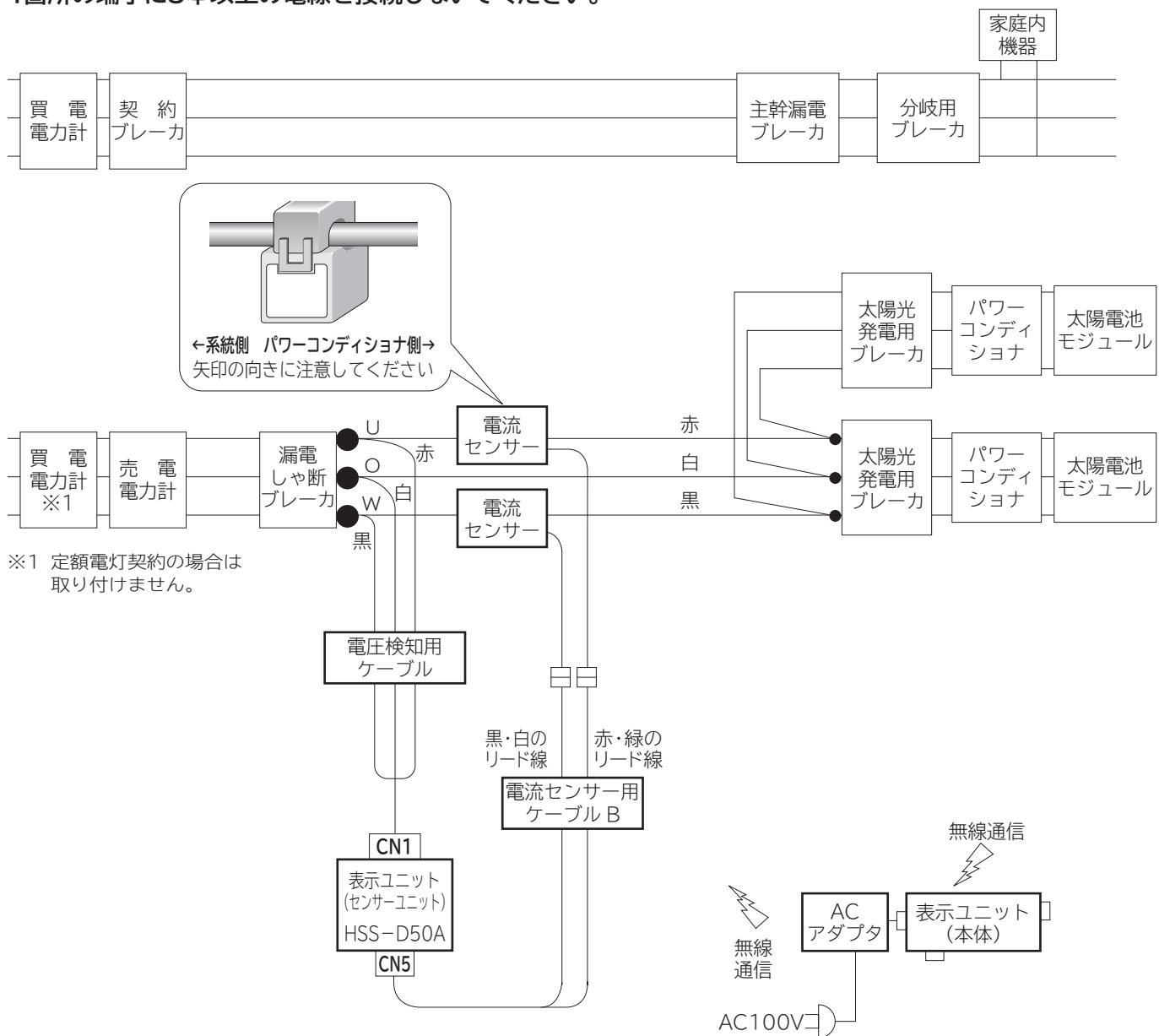
- 全量配線のシステムに接続する場合は、17ページの内容にしたがって表示ユニット（センサー ユニット）の設定変更を必ず行ってください。  
表示ユニット（本体）の発電電力と売電電力の表示がずれる場合があります。

### パワーコンディショナ2台を設置し、全量配線（売電専用）する場合

漏電しゃ断ブレーカと太陽光発電用ブレーカを接続するケーブルの1線（1C）当たりの外形が $\phi 14\text{mm}$ 以下の場合は、1台の表示ユニット（センサー ユニット）に2~3台のパワーコンディショナを接続することができます。（定格出力が5.5kWのパワーコンディショナは2台までしか接続できません。）下図を参照しながら配線を行ってください。

電流センサーは2個だけ使用し電流センサー用ケーブルBに接続してください。

1箇所の端子に3本以上の電線を接続しないでください。



## パワーコンディショナ2台を設置し、全量配線（売電専用）する場合

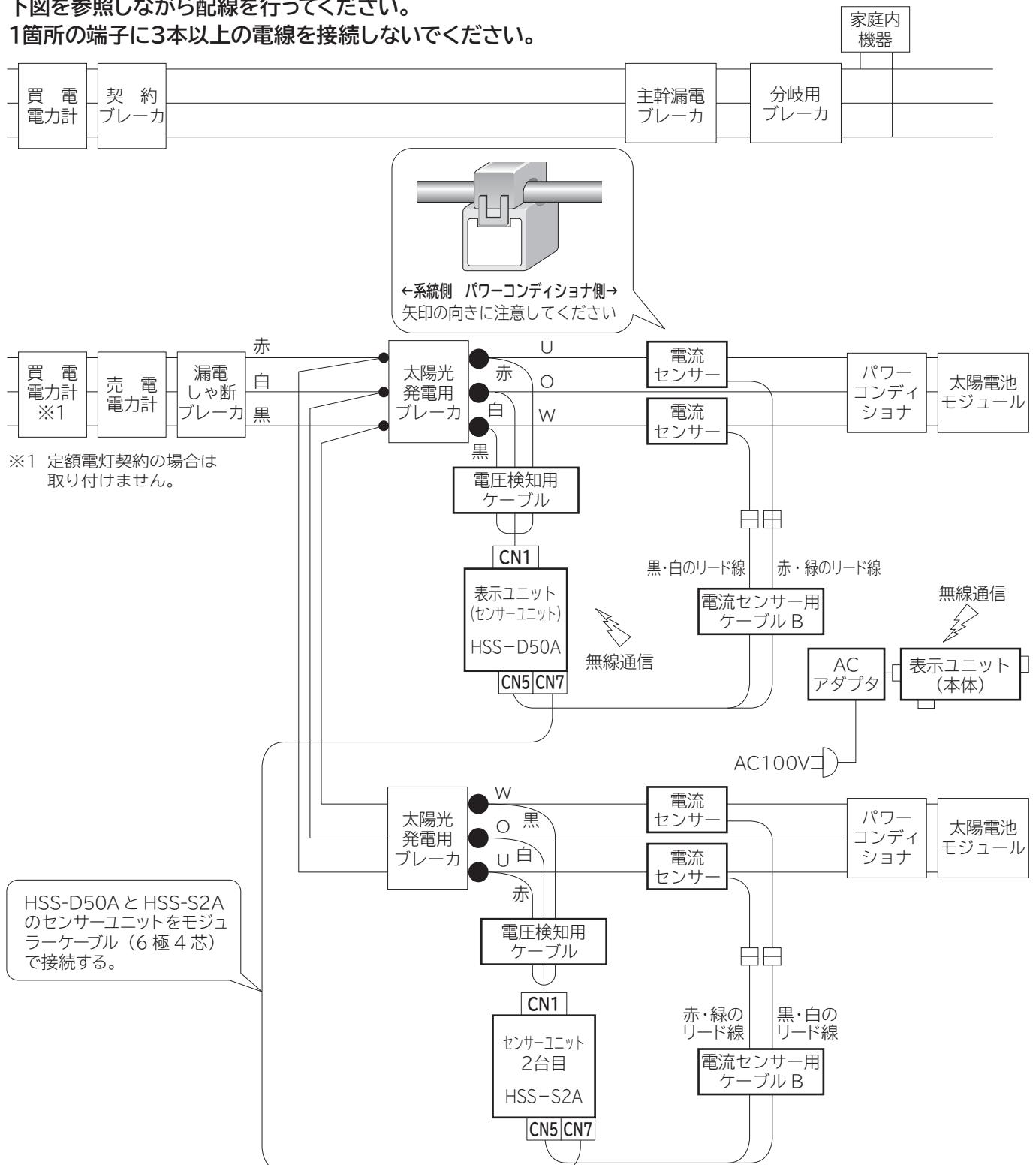
漏電しゃ断ブレーカと太陽光発電用ブレーカを接続するケーブルの1線(1C)当たりの外形がΦ14mmを超える場合は電流センサーを正しく取付けることができないため、1台の表示ユニット(センサユニット)にパワーコンディショナを2台以上接続することはできません。

センサユニットの2台目は、別売のセンサユニット(HSS-S2A)をご用意してください。

パワーコンディショナはHSS-D50AとHSS-S2Aのセンサユニットに各々1台ずつ接続してください。

下図を参照しながら配線を行ってください。

1箇所の端子に3本以上の電線を接続しないでください。



### パワーコンディショナ3台を設置し、全量配線（売電専用）する場合

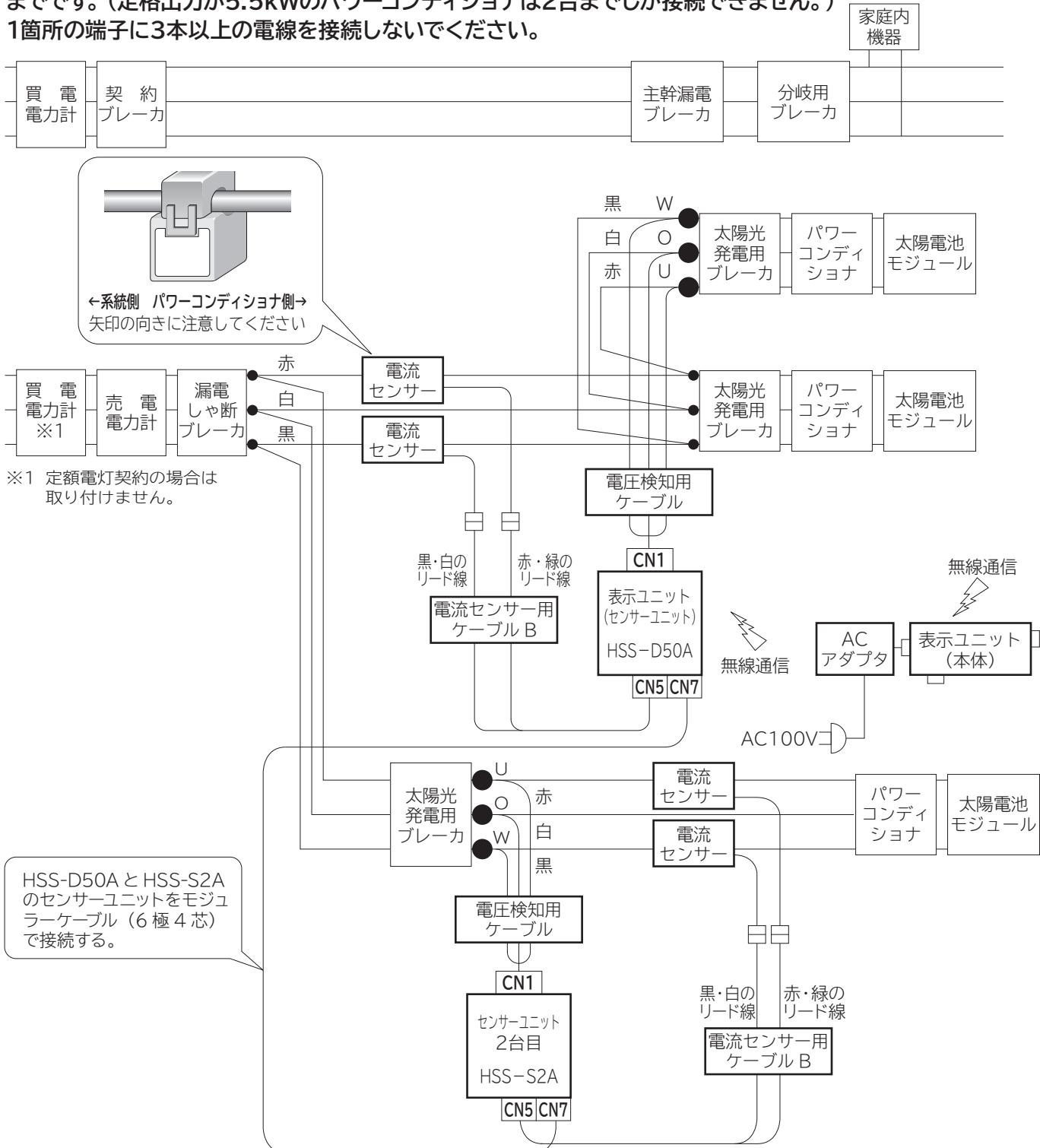
漏電しゃ断ブレーカと太陽光発電用ブレーカを接続するケーブルの1線(1C)当たりの外形はΦ14mm以下である必要があります。

センサユニットの2台目は、別売のセンサユニット(HSS-S2A)をご用意してください。

下図を参照しながら配線を行ってください。

表示ユニット(センサユニット)の電流センサーは2個だけ使用し電流センサー用ケーブルBに接続してください。1台のHSS-D50A及びHSS-S2Aのセンサユニットに接続できるパワーコンディショナの台数は各2~3台までです。(定格出力が5.5kWのパワーコンディショナは2台までしか接続できません。)

1箇所の端子に3本以上の電線を接続しないでください。



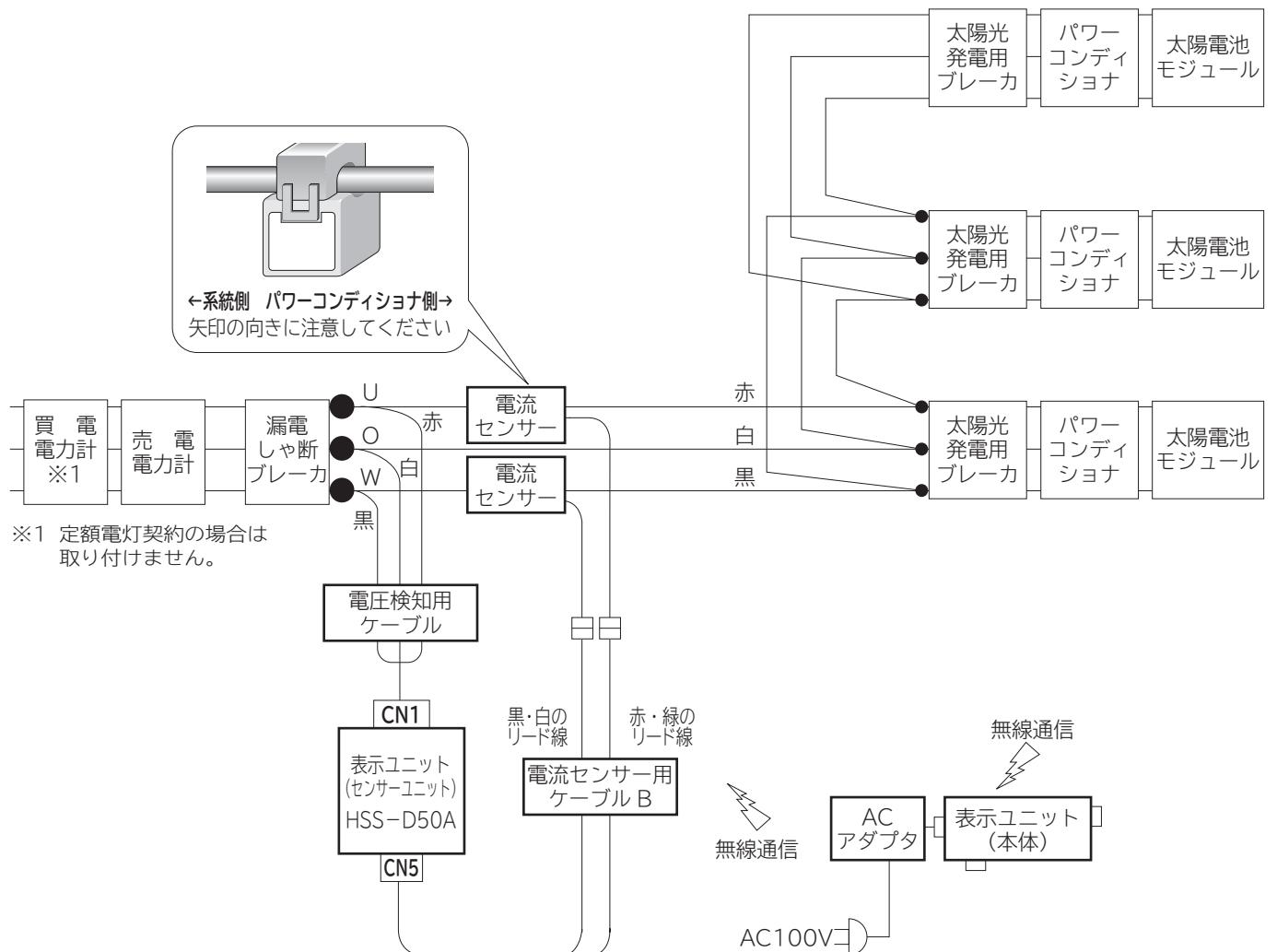
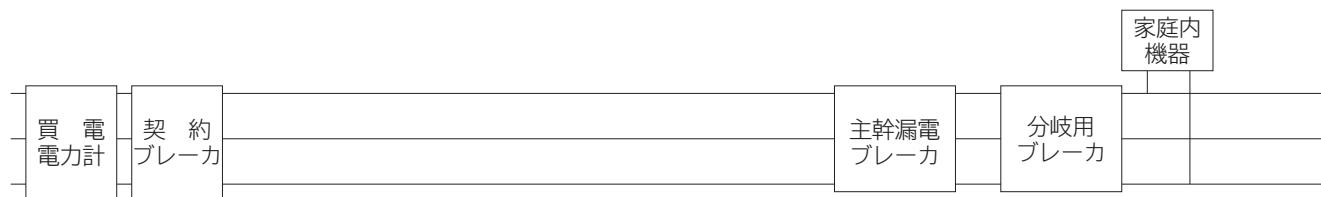
パワーコンディショナ3台を設置し、全量配線（売電専用）する場合

漏電しゃ断ブレーカと太陽光発電用ブレーカを接続するケーブルの1線(1C)当たりの外形はφ14mm以下である必要があります。

全てのパワーコンディショナの定格出力が4.0kWの場合は1台の表示ユニット(センサユニット)に3台のパワーコンディショナを接続することができます。下図を参照しながら配線を行ってください。

電流センサーは2個だけ使用し電流センサー用ケーブルBに接続してください。

1箇所の端子に3本以上の電線を接続しないでください。



## パワーコンディショナ4台を設置し、全量配線（売電専用）する場合

漏電しや断ブレーカと太陽光発電用ブレーカを接続するケーブルの1線(1C)当たりの外形はφ14mm以下である必要があります。

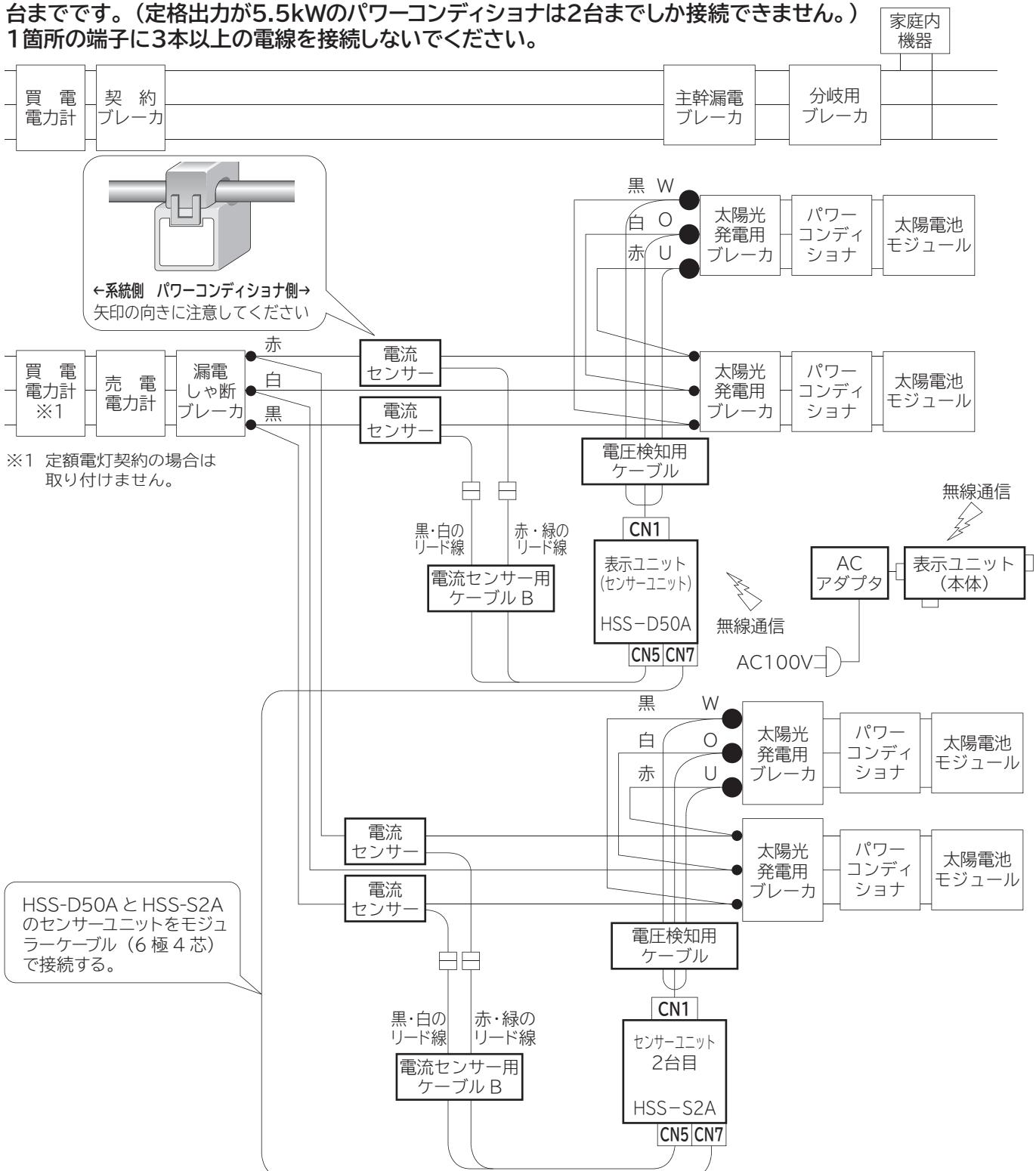
センサユニットの2台目は、別売のセンサユニット(HSS-S2A)をご用意してください。

下図を参照しながら配線を行ってください。

表示ユニット(センサユニット)の電流センサーは2個だけ使用し電流センサー用ケーブルBに接続してください。

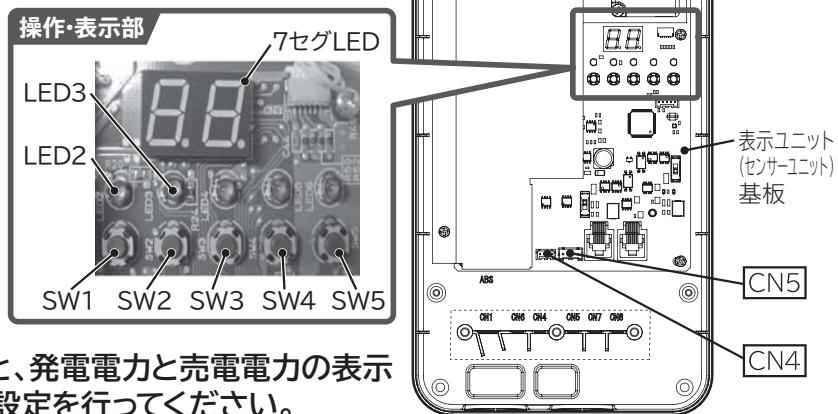
1台のHSS-D50A及びHSS-S2Aのセンサユニットに接続できるパワーコンディショナの台数は各2~3台までです。(定格出力が5.5kWのパワーコンディショナは2台までしか接続できません。)

1箇所の端子に3本以上の電線を接続しないでください。



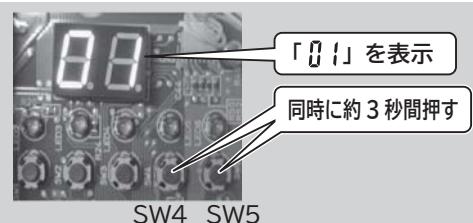
# 全量配線(売電専用)の設定のしかた

- この設定は、太陽光発電システムの施工完了後に行ってください。
- 表示ユニット(センサユニット)基板のコネクタCN4に、電流センサー用ケーブルが接続されていないことを確認してください。
- 表示ユニット(センサユニット)のフタを外した状態で行ってください。
- 感電に注意してください。
- 全量配線時に以下の設定を行わないと、発電電力と売電電力の表示値がずれる場合がありますので、必ず設定を行ってください。



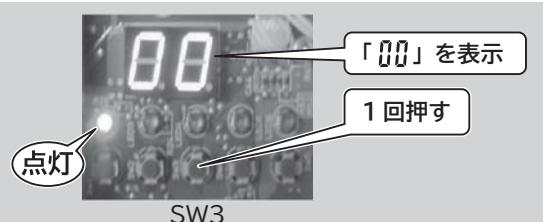
## 1 SW4とSW5を同時に約3秒間押す

- 7セグLEDに「01」を表示



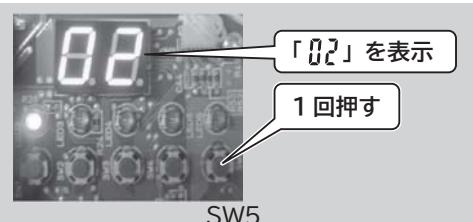
## 2 SW3を1回押す

- LED2が点灯し、7セグLEDに「00」を表示



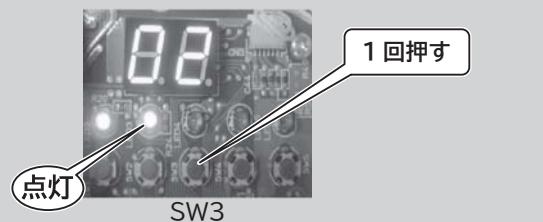
## 3 SW5を1回押す

- 7セグLEDに「02」を表示



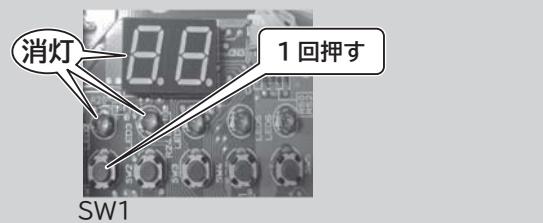
## 4 SW3を1回押す

- LED3が点灯



## 5 SW1を1回押す

- LED2、LED3、7セグLEDの表示が全て消灯



## 確認

### 表示ユニット(本体)の表示内容を確認する

- 発電電力と売電電力が同じ値で、消費電力が0.0を表示していれば正常です  
フタを取り付けて完了してください



- 表示ユニット(本体)の表示内容が上記のようにならない場合は、操作手順1からやり直してください。
- 途中で操作を間違えた場合は操作手順5を行った後、操作手順1からやり直してください。

# 施工後の点検

## 1 取付状態およびコネクタ側および系統側の接続を確認する

太陽光発電システムの接続箱内のすべての開閉器および太陽光発電用ブレーカを「OFF」の状態で、取付状態およびコネクタ側および系統側の接続を確認してください。

## 2 電圧検知用ケーブルのコネクタ側および系統側の接続を確認する

電圧検知用ケーブルのコネクタ側および系統側の接続を確認してください。

## 3 電流センサーを取り付ける相、センサーの向きを確認する

電流センサーを取り付ける相(U相、W相)、センサーの向きに間違いがないか確認してください。

## 4 確認後、太陽光発電用ブレーカを「ON」にする

確認後、太陽光発電用ブレーカを「ON」にしてください。

## 5 表示ユニット(本体)の表示を確認する

表示ユニット(本体)の表示確認を行ってください。 → P.19

## 6 ノックアウトホールの穴にはめ込んだブッシングのすきま(隠蔽配線の場合は隠蔽配線用の穴)がパテなどでふさがれていることを確認する

水分・ほこり・虫等の侵入を防ぐため、表示ユニット(センサユニット)のブッシングのすきまや隠蔽配線用の穴がパテなどでふさがれていることを確認してください。

## 7 表示ユニット(センサユニット)のフタを取り付ける

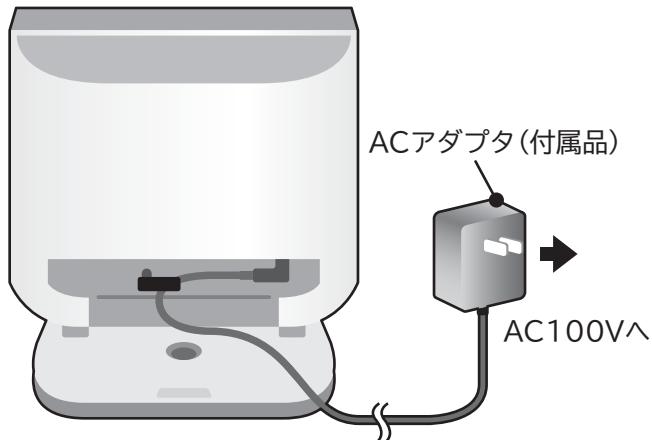
表示ユニット(センサユニット)のフタを取り付けてください。

# 表示ユニット（本体）の表示確認

●施工後の点検 → P.18 ④まで終了後、表示ユニット（本体）と表示ユニット（センサユニット）が通信できるかを確認します。

## 1 ACアダプタを接続する

- ①表示ユニット（センサユニット）の近くで、表示ユニット（本体）のACアダプタをコンセントに差し込んでください。
- ②「HITACHI」が表示されてから約3秒でホーム画面が表示されます。  
売電価格が初期設定されていない場合はホーム画面が表示されないで、売電価格設定の画面が表示されます。売電価格の設定を行ってください。→ P.22
- ③アンテナマークまたは有線接続マークが正しく表示されることを確認してください。  
正しく表示されない場合は「表示ユニット（本体）が正しく表示されないときは」を確認してください。→ P.20
- ④日付・時刻が正しいことを確認してください。  
正しく表示されない場合は表示ユニット（本体）の取扱説明書を確認してください。



次頁に続く

## 表示ユニット(本体)の表示確認(つづき)

### お願い

施工が正常に完了していることを確認するため、下記項目を実施してください。

- パワーコンディショナが運転開始で発電状態になったとき、表示ユニット(本体)に表示される発電量がパワーコンディショナ本体の表示とほぼ合っていることを確認してください。パワーコンディショナ本体の表示とのわずかなずれ(0.1kW位)は異常ではありません。
- 消費電力の大きい電化製品(掃除機、ドライヤー等)を運転させて、表示ユニット(本体)の消費の数値が上がるなどを確認してください。
- 上記の確認と共に、下記計算式の計算を行い、表示ユニット(本体)の「発電」「消費」「売／買」の値が正しく表示されていることを確認してください。

### 計算式

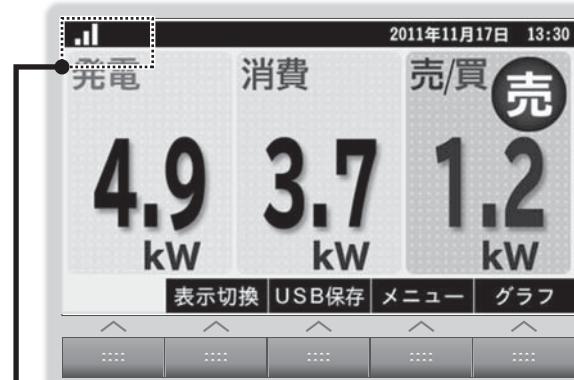
$$\text{消費 (kW)} = \text{発電 (kW)} - \text{売 (kW)}$$

または

$$\text{消費 (kW)} = \text{発電 (kW)} + \text{買 (kW)}$$

(右図例)

$$\text{消費 } 3.7\text{kW} = \text{発電 } 4.9\text{kW} - \text{売 } 1.2\text{kW}$$



アンテナマーク	有線接続マーク
○	.ll
×	●

・表示ユニットの設置位置の再検討  
・有線通信に変更

・配線およびモジュラーケーブルの確認

※消費の数値が変わらない、もしくは下がった場合は電圧検知用ケーブルの系統側への接続または電流センサーを取り付ける相(U相、W相)、センサーの向きなど、配線が間違っている可能性があります。再度、配線を確認の上、表示の確認を行ってください。また、実際の消費電力が少ない場合(0.1kW以下)は計算式と表示が合わない場合があります。消費電力の表示が0.2kW以上の時に計算があつていれば、問題ありません。

### 表示ユニット(本体)が正しく表示されないときは

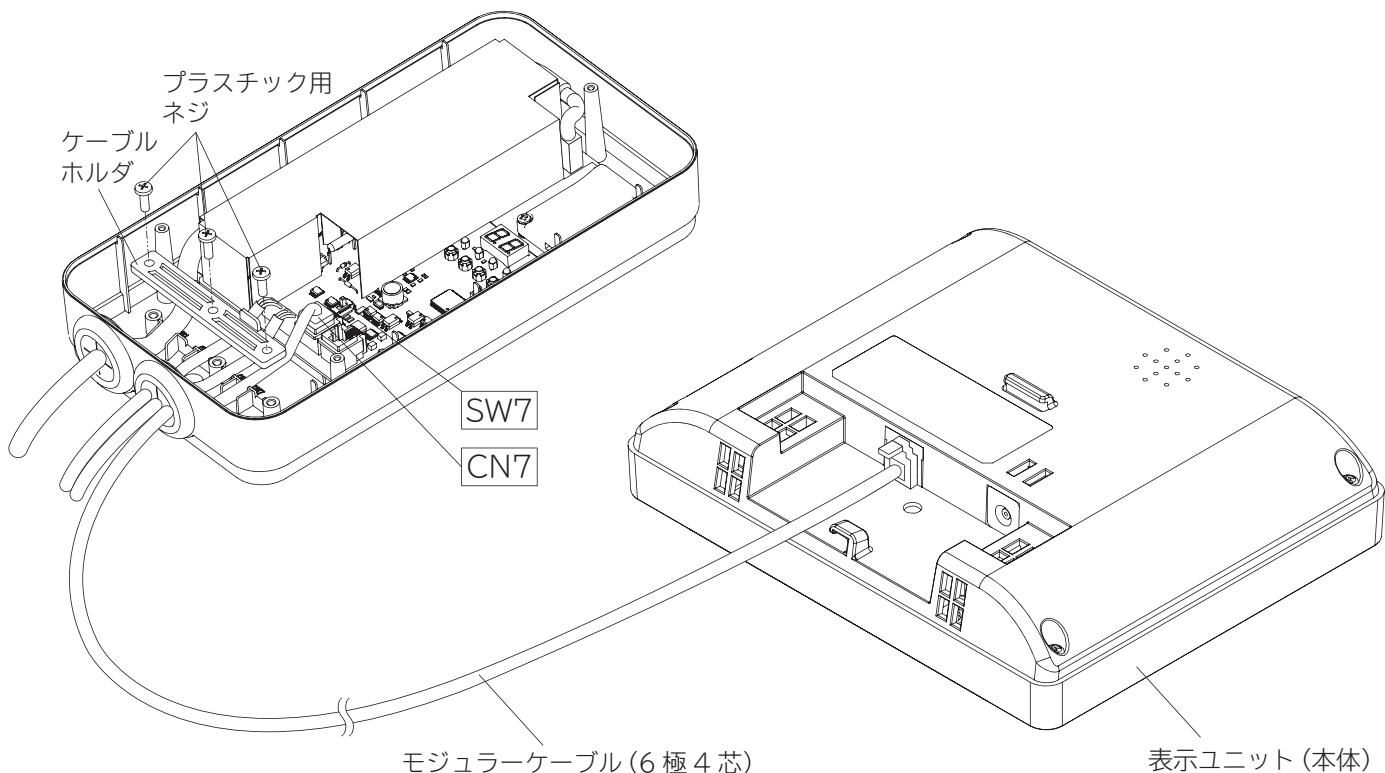
項目	内 容	確認事項
1	表示ユニット(本体)が表示しない	ACアダプタは正しく接続されていますか？
2	表示ユニット(本体)に表示される数値がおかしい	施工後の点検をもう一度ご確認ください。 → P.18
3	表示ユニット(本体)のアンテナマークが「」のとき(無線通信ができない)	設置環境により電波が届かない場合があります。 表示ユニット(センサーユニット)の近傍であれば通信できる場合、設置場所を変更してみてください。 また有線通信も行えます。 → P.21
4	表示ユニット(本体)の有線接続マークが「」のとき(有線通信ができない)	<ul style="list-style-type: none"> <li>モジュラーケーブルは正しく接続されていますか？</li> <li>6極4芯以外のモジュラーケーブルや爪が同一方向に付いた下図のようなモジュラーケーブルを使用していませんか？</li> </ul> <p>・表示ユニット(本体)の設定が有線方式に変更されていますか。 通信方式を確認してください。 → P.21,P.23</p>

# 表示ユニット(本体)側の配線 (有線接続の場合)

表示ユニット(本体)は表示ユニット(センサユニット)との無線通信により、発電量等のデータを表示します。ただし、設置状況により無線通信でご使用出来ない場合があります。表示ユニット(センサユニット)と表示ユニット(本体)が無線通信できない場合は「圏外」が表示されます。その場合、表示ユニット(本体)側の設置場所を再検討してください。それでも無線通信ができない場合は有線通信を行ってください。

## 表示ユニット(本体)を有線接続方法 (パワーコンディショナ1台設置の場合)

- モジュラーケーブル(6極4芯)を用意し(現地手配)、表示ユニット(センサユニット)への配線の作業終了後、下図を参照しながら配線を行ってください。



### 1 モジュラーケーブル(6極4芯)を表示ユニット(センサユニット)基板に差し込む

モジュラーケーブル(6極4芯)を表示ユニット(センサユニット)基板のCN7に差し込んでください。  
ケーブルはケーブルホルダで必ず固定してください。

### 2 表示ユニット(センサユニット)基板のスライドスイッチSW7をONにする

※パワーコンディショナを2台設置する場合は、別売のセンサユニットに同梱されている工事説明書にしたがって設定してください。

### 3 表示ユニット(本体)にモジュラーケーブルを差し込む

表示ユニット(本体)にモジュラーケーブル(6極4芯)を差し込んでください。

### 4 表示ユニット(本体)の通信方式を「無線」から「有線」に設定変更する

通信方式設定方法にしたがって設定の変更を行ってください。

# 売電価格の初期値設定方法

## ●操作方法

- 1 ACアダプタをコンセントに差し込んで電源を入れてください。



- 2 売電価格が未設定の場合は、必ずこの画面に移行します。「▲」を押して、対応する価格にします。

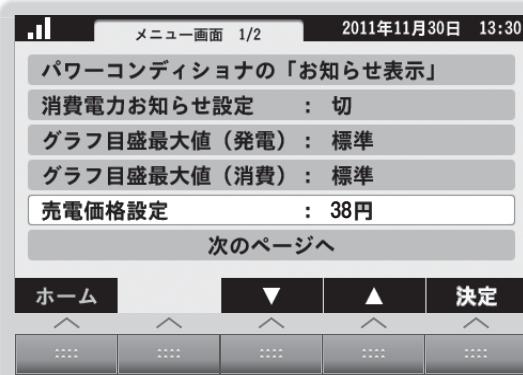


- 3 最後に「決定」を押します。



- 4 売電価格設定が「38円」となります。

※次回以降はACアダプタの電源を入れなおしても売電価格設定の入力画面に移行することはできません。



# 通信方式設定変更「有線→無線」方法

●通信方式の「有線⇒無線」の設定変更またはCO<sub>2</sub>換算係数の設定変更を行う場合は、最初は同一の操作を行って機能設定のメイン画面を表示させますが、この後の操作は23ページと24ページで指示されていること以外の操作は絶対行わないでください。

他の設定データや保存データが消えてしまう可能性があります。

## ●操作方法

事前準備：表示ユニット（表示部）とACアダプタを操作しますので、手元で操作できるように移動してください。

- 1 ACアダプタをコンセントから抜いた状態で、右図の2つのスイッチを同時に押したまま、ACアダプタのコンセントを差し込んでください。

機能設定のメイン画面が表示されます。



- 2 スイッチ【2】を押します。



- 3 スイッチ【2】を押します。



- 4 通信方式が「有線」となります。

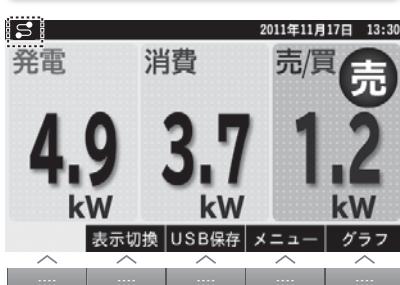


- 5 ACアダプタをコンセントから抜き、1秒以上待ってからコンセントに差し込むと、ホーム画面表示になります。

⌚:通信正常

☒:通信異常

右記は「ホーム画面」の一例

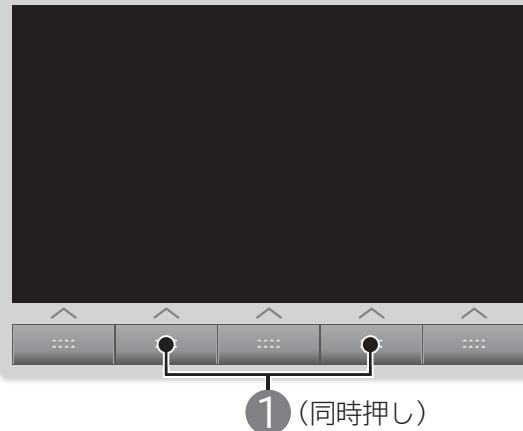


# CO<sub>2</sub>換算係数の設定方法

●CO<sub>2</sub>換算係数は太陽電池モジュールの種類により異なります。  
必要に応じて設定の変更を行ってください。（初期設定では結晶系シリコンの係数が設定されています）

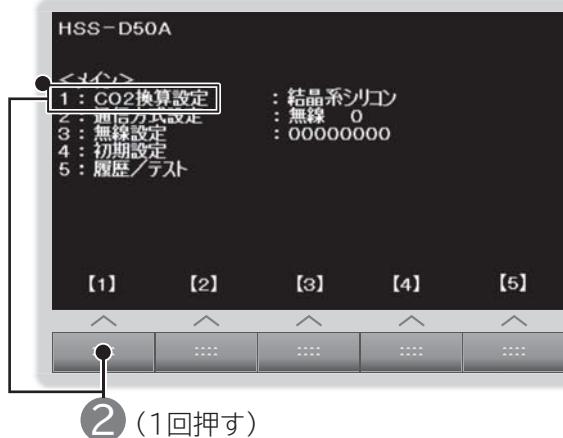
- 1 ACアダプタをコンセントから抜いた状態で、右図の2つのスイッチを同時に押したまま、ACアダプタのコンセントを差し込んでください。

機能設定のメイン画面が表示されます。



- 2 [1] のボタンを押し、  
CO<sub>2</sub>換算係数設定画面に入る

CIS・結晶系シリコン・アモルファスシリコンの3種類の係数が表示されます。



- 3 設置している太陽電池モジュールの種類と同じものを選び、該当するボタンを押す

CO<sub>2</sub>換算の係数が設定されます。

ボタン	太陽電池モジュール
[1]	CIS
[2]	結晶系シリコン
[3]	アモルファスシリコン



- 4 正しく設定されたことを確認してからACアダプタをコンセントから抜いてください

以上でCO<sub>2</sub>換算係数の設定は完了です

# MEMO

## MEMO

## MEMO

◎日立アプライアンス株式会社

〒105-8410 東京都港区西新橋 2-15-12 電話 (03)3502-2111